## 第 2 章　交流センター等における太陽光発電の率先導入に向けた F/S 調査

### 2-1. 公共施設における太陽光発電の率先導入に向けた F/S 調査

本調査では、前回業務に続き、設置までのリードタイムが短い太陽光発電設備の導入に向けた F/S 調査を行った。

調査の対象とする施設は、交流センターと農業集落排水処理施設。交流センターは、前回業務において調査未実施の施設を対象とする。

#### 2-1-3. 調査方法

本調査で検討する太陽光発電設備の型式は、屋根置き太陽光発電設備及び垂直設置型太陽光発電設備（地上設置）、ソーラーカーポート（駐車場設置）、フレキシブルパネル（壁面設置）の 4 種類とする。

#### 2-1-6. 契約電力及び年間電力使用量

電気使用量は、母里(交)及び安来中央(交)、大塚(農)、安田(農)の 4 施設が、他の施設と比較して非常に多い(昨年度調査施設も含め)。

#### 2-1-7. 現地調査及び管理者ヒアリング調査

①建物の残余年数が 0 以上の施設、②契約電力が大きく電力使用量が多い施設、③地域課題解決に繋がる可能性が高い施設を優先して調査を実施した。

#### 2-1-8. 設置可能な場所の検討

設置が想定される発電設備の型式は右表の通りである。

#### 2-1-9. 自家消費を主として設置～撤去までの費用及び経済効果の試算

自家消費を基本とした場合の費用及び経済効果を試算した。

#### 2-1-10. 事業性評価

自家消費のみで 20 年以内に単純回収が可能な施設は、母里交流センターと大塚農業集落排水処理施設であった（昨年度調査施設も含め）。この場合、設置から 20 年時点での収支は、母里交流センターは 3,847 千円、大塚農業集落排水処理施設は 4,698 千円であった。補助事業を活用（率 1/2）するものとして試算を行った結果、伯太中央交流センター以外は、「20 年間で単純回収が可能」であるとされている。

来年度以降は、地域経済効果における定量的な評価も実施の上、事業性の再評価を行う必要がある。

### 2-2. ペロブスカイト太陽電池の導入可能性の検討

本太陽電池は、次世代の太陽光発電技術として大いに注目を集めている。本業務では、官民学等の動向調査及び実証実験の提案を行った。本太陽電池に係る官民協議会では、製作技術の確立やテスト実証は、2025 年度末までとされ、その後「量産技術の開発」を促進していくとされている。

写真　母里交流センターに係る設備設置イメージ

写真　大塚農業集落排水処理施設に係る設備設置イメージ

表　事業性評価のまとめ（各点数は、施設間の相対評価とする）

| 施設名 | 発電型式 | | 定量評価（各項目 10 点満点） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 発電方式 | 発電出力(kW) | 採算性 | 啓発効果 | 地域課題解決 | レジリエンス効果 | 地域経済効果 | 総合評価 ＜40 点満点＞ |
| 安来中央(交) | フレキシブルパネル（壁面設置） | 9.00 | 補助事業を活用(1/2)すれば、20 年以内に単純回収が可能。高圧設備との接続に費用を要する。 4 | 利用者数は 36,000 人/年(R5 年度)であり、他施設と比較して、非常に多く、啓発効果は大きいと判断する。 10 | 中心地に位置し、利用者数も多いことから、間接的な地域波及効果が期待できる。 6 | 利用者が多く、市役所も隣にあるため、非常時におけるレジリエンス効果は高いと判断する。 8 | 令和 7 年度立上げ予定の勉強会での算出を想定 | 採算性で劣るが、利用者が多く立地も良いため、啓発やレジリエンス効果は非常に高い。補助事業の見通しがたつ場合は、優先順位が非常に高い。 28 |
| 島田(交) | ソーラーカーポート（駐車場） | 9.03 | 補助事業を活用(1/2)すれば、20 年以内に単純回収が可能。エネルギー消費量が少なく、長期的な収支が見通しにくい。 4 | 利用者数は 7,462 人/年（R5 年度）であり、他施設と比較し、中間評価。 5 | 景色は良いが、日差しを遮るものがなく、夏は暑い。ブラインドになる太陽光パネルが整備できれば良いが、地域課題解決の観点では中間評価。 4 | 2～3 年前の大雨の際には、30 人程の避難民が滞在した。レジリエンス効果に係る実績がある。 6 | | 全体的に中間評価。 19 |
| 飯梨(交) | ソーラーカーポート（駐車場） | 11.61 | 補助事業を活用(1/2)すれば、20 年以内に単純回収が可能。エネルギー消費量が少なく、長期的な収支が見通しにくい。 4 | 利用者数は 1,000 人/年（R5 年度）であり、他施設よりも少ないが、足立美術館に近く、工夫次第で可能性は有り。 4 | 縦横の交通網が整備されており、EV 自動車(V2H)の拠点(EV スタンド等)になりうる可能性を有する。この場合、地域経済効果も期待できる。 9 | EV 自動車の拠点が整備されれば、レジリエンス効果は高い。昨今ガソリンスタンドも減少している。 8 | | EV 自動車の拠点として整備した場合、地域経済循環効果の観点で、より効果的だと判断する。EV 自動車拠点の整備を行わない場合は、全体的に効果は低い。 25 |
| 比田(交) | ソーラーカーポート（駐車場） | 9.03 | 補助事業を活用(1/2)すれば、20 年以内に単純回収が可能。エネルギー消費量が少なく、長期的な収支が見通しにくい。 4 | 利用者数は 6,661 人/年（R5 年度）であり、他施設と比較し、中間評価。 5 | 小さな拠点づくり事業と連携することで、地域波及効果が期待できる。将来的な EV 化に伴う、デマンド交通網の促進等が想定される。 8 | 山間部に位置しており、市街地と分断された際のライフラインとして可能性がある。 8 | | 採算性で劣るが、小さな拠点づくり事業との連携により、地域課題の解決に向けた波及効果が期待できる。 25 |
| 伯太中央(交) | 屋根置き太陽光発電設備 | 12.30 | 補助事業を活用(1/2)しても、20 年以内の単純回収は不可能。高圧設備との接続に費用を要する。 1 | 利用者数は 7,464 人/年（R5 年度）であり、他施設と比較し、中間評価。 5 | 伯太地域では古くから、味噌づくりが盛んである。太陽光パネルの整備にて味噌づくりブランド化が期待できる。広瀬地域でも味噌づくりはある。 6 | 安来市役所伯太庁舎と隣接し、ある程度のレジリエンス効果が見込める。 6 | | 特に採算性で劣る。屋根が大きく施工はしやすい。安来市役所伯太庁舎にも隣接することから、レジリエンス効果には多少期待できる。 18 |
| 母里(交) | 屋根置き太陽光発電設備 | 32.80 | 自家消費のみで 20 年以内に単純回収が可能。 10 | 利用者数は 5,846 人/年（R5 年度）であり、他施設と比較し、中間評価。 5 | 地域イベントでの活用に伴う地域経済効果や EV 充電スタンド拠点の整備等に伴う移動拠点化等が想定される。地域課題の解決においては中間評価。 5 | 発電出力（約 30kW）が大きく、停電時にまとまった電気を供給することが可能。 8 | | 他施設と比較し、採算性の評価が一番高い。発電出力も大きく、レジリエンス効果が期待できる。工夫した活用により、地域課題解決にも期待する。 28 |
| 大塚(農) | 垂直設置型太陽光発電設備 | 30.42 | 自家消費のみで 20 年以内に単純回収が可能。 9 | 一般市民の利用はないが、モデル事業（処理場への太陽光発電設備の整備）としての啓発効果には期待できる。 6 | 地域のライフラインインフラである。停電が起きても、通常通り稼働できるのは利点。地域課題の解決においては中間評価。 5 | 発電出力（約 30kW）が大きく、停電時にまとまった電気を供給することが可能。蓄電池を整備すれば、多様な設備の活用が可能。 7 | | 他施設と比較し、採算性が良く、安定したエネルギー消費が見込めるため、収支の見通しがたちやすい。モデル事業要素もあるため、啓発効果に期待する。 27 |

※ 昨年度調査分に係る評価は、前回業務報告書を参照すること（採算性は、前述）。

## 第 3 章　地域主導型マイクロ水力発電に向けた勉強会

### 3-1.　やすぎ再エネ学習会

#### 3-1-1. 開催概要

やすぎ再エネ学習会は、「やすぎミニミニ水力発電親子体験教室」の開催に際し、地元住民から「事前に、再エネや水力発電について基本から学びたい」という要望を受け、開催したものである。

- 学習会名：やすぎ再エネ学習会～安来らしい小さな水力発電の取組を考える～
- 日時：2024 年 9 月 28 日（土）10 時 30 分～12 時 00 分
- 開催場所：広瀬中央交流センター
- 開催趣旨：再生可能エネルギーについて広く学び、マイクロ水力発電の仕組みや事業内容について理解促進を図る。
- 対象者：安来市在住の再エネや小水力発電に興味のある方
- 体制：①主催→安来市、②共催→安来市地球温暖化対策地域協議会、③運営・講師→荒谷建設コンサルタント

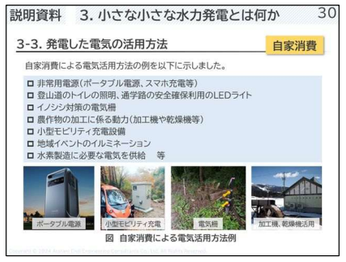
図　開催概要

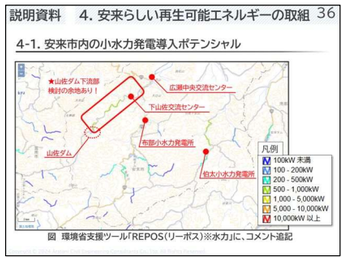
写真　本学習会当日の風景

図　広報用チラシ

#### 3-1-2. 講演内容の検討及び資料作成

講師は受注者が務めた。学習内容は、「再エネについて基本から学び、皆で小さな水力発電の取組を考える！」とし、全国の先進事例を紹介しながら説明を行った（以下、一部抜粋）。




#### 3-1-3. アンケート調査結果

本学習会終了後、記述式の「参加者アンケート」を実施した。調査結果の分析は以下の通り。

- 本学習会の趣旨は、仕組みや事業内容に係る理解促進である。[設問 4]の「満足度」において、半数が「満足」と回答していることから、ある一定の成果は得られたと判断できる。
- [設問 6]の「今後の生活・活動に活かせそうか」といった問いには、「わからない」と回答した人が半数以上いた。次なるアクションにつなげるため、更なる工夫やメッセージが必要であると判断できる。
- [設問 10]の「協議会に参加したいか」といった問いには、半数が「はい」と回答していた。安来市民の再エネに関わる積極性がうかがえる結果となっている。

図　アンケート調査分析

### 3-2.　やすぎミニミニ水力発電親子体験教室

#### 3-2-1. 開催概要

やすぎミニミニ水力発電親子体験教室は、地元住民を対象に、ワークショップを通してマイクロ水力発電の仕組み等について学び、再エネの取組に係る理解促進を図ることを目的に開催した。

- 教室名：やすぎミニミニ水力発電親子体験教室
- 日時：2024 年 10 月 14 日（月・祝）10 時 00 分～12 時 00 分
- 開催場所：下山佐交流センター
- 開催趣旨：ワークショップを通してマイクロ水力発電の仕組み等について学び、再エネの取組に係る理解促進を図ること
- 対象者：市内に住む親子
- 体制：①主催→安来市、下山佐交流センター
  ②共催→安来市地球温暖化対策地域協議会
  ③協力→下山佐親子会、④企画・運営→荒谷建設コンサルタント

図　開催概要

写真　本教室当日の風景

図　広報用チラシ

#### 3-2-2. 手作り水力発電キット

本教室の開催に際し、新たに「手作り水力発電キット」を開発した。手作り水力発電キットの構造は、「ペットボトルを水車の羽根とし、自転車等のハブダイナモに取り付け、豆電球に接続する」といったものである。

来年度以降の企画検討においては、参加者の想像力を“より形にできる工夫”を行うと良いと考える（羽根の素材から選択できるようにする等）。

#### 3-2-3. アンケート調査結果

本教室終了後、記述式の「参加者アンケート」を実施した。調査結果の分析は以下の通り。

- [設問 2]の「満足度」に関わる問いについて、参加者全てが「大満足」や「満足」と回答していた。本教室の趣旨である「楽しみながら学ぶ」の成果が出ていると判断できる。
- [設問 4]の「スタッフ説明や配布資料のわかりやすさ」に関わる問いについては、全ての人が「はい」と回答していた。企画から準備、運営にかけて、ある程度の成果が出ていると判断できる。
- [設問 6]の「今後の参加意欲」についての問いについては、ほぼ全員が「すごく思う」と回答していた。このことから、本教室は継続的な実施が望まれると判断できる。

図　アンケート調査分析

### 3-3.　マイクロ水力発電に関わる概算導入可能性調査

安来市内には既に、小水力発電所が 6 施設整備されている（市管理：2 施設、県管理：4 施設）が、小水力発電所の新設において、未だ導入ポテンシャルは有している可能性が高いと想定される。

本調査では、山佐ダムの下流域（下山佐地区付近まで）における概算導入可能性調査を実施した。上山佐地区では約 180kW、下山佐地区では約 60kW の発電規模の導入可能性があった。本調査は、概算検討であるため、今後の設備導入に向けた、事業収支計画等の実施による事業採算性の検討が必要である。

## 第４章　バイオマス燃料製造の実現可能性の検討

本調査では、バイオマス燃料製造の実現可能性の検討として、中間サイズの「バイオ炭炭化設備の導入可能性の検討」及び「地域課題の諸課題解決につながる事業の検討」を行った。

### 4-1.　バイオ炭炭化設備の導入可能性の検討

#### 4-1-1. バイオ炭炭化設備に係る資料収集

本検討における中間サイズの炭化設備とは、製炭量 20～7,000kg/回程度の設備を言う。本炭化ユニットについて、販売事業者である熱海マリーンサービス株式会社に聞き取り調査を行い、各検討の参考とした。

表 1　炭化設備の規模感

| | 小規模＜簡易炭化器等＞ | 中間サイズ＜炭化ユニット＞ | 大規模＜平炉等＞ |
|---|---|---|---|
| イメージ | | | |
| 製炭量 | 2～20kg/回程度 | 20～7,000kg/回程度 | 7,000kg/回程度 |

#### 4-1-2. 材の収集～製炭～利用（販売）のスキームの検討

最適なスキームの検討に向けて、各工程に関わる参考事例を調査した。本炭化ユニットを導入している三光株式会社（境港市に本社）にヒアリング調査を行い、バイオ炭製造事業や炭化ユニットの取り扱い方法等について確認を行った。本ヒアリング調査の結果、本炭化ユニットの取り扱いには、更なる試行錯誤が必要であるとわかった（例：平炉のように均一の品質を保つことが困難）。

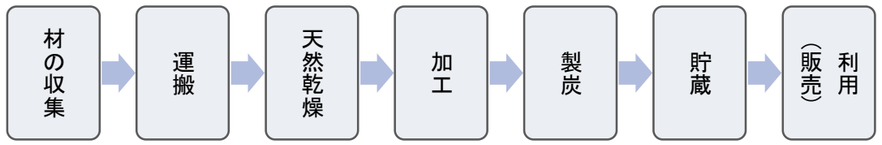



図　スキームのイメージ図

### 4-2.　地域の諸課題解決につながる事業の検討

#### 4-2-1. バイオ炭における原材料の賦存量及び製造可能量

DW-t：絶乾重量

市内における竹の賦存量は、2,443 DW-t/年（絶乾重量）である。剪定枝やもみ殻等の農業残渣の量も整理した。

#### 4-2-2. 事業性の検討

燃料製造事業（一部、土壌改良剤としても販売）の検討において、発注者と協議の上、想定される事業案を４つ整理した

【事業案 A】：山佐ダムキャンプ場に、市が炭化ユニットを設置（原料：竹）
【事業案 B】：草や木くずを原料として、民間事業者が自ら炭化ユニットを設置
【事業案 C】：農業集落排水処理施設に、市が炭化ユニットを設置（原料：下水汚泥）
【事業案 D】：木育や SDGs 関連の木製品の廃材を炭としてアップサイクルし、熱利用

図　燃料製造事業の検討に係る事業案

**1)【事業案 A】山佐ダムキャンプ場に、市が炭化ユニットを設置（原料：竹）**

山佐ダムキャンプ場に、炭化ユニットを設置した場合の事業スキームについて整理を行った

表　事業案 A の事業内容

| 番号 | 事業内容 | 担当 |
|---|---|---|
| 1 | 竹等を切り出し・運搬 | 検討が必要 |
| 2 | 山佐ダムキャンプ場に設置した炭化ユニットで製炭 | 安来市 |
| 3 | 製造したバイオ炭を、<br>①　キャンプ場 BBQ 用燃料として販売（体験エコツーリズム化）<br>②　土壌改良剤として市内農家に販売（農業の高付加価値化） | 山佐ダム体験交流施設管理組合 |
| 4 | バイオ炭の認知度向上、需要創出により地元事業者の参画を促進 | 検討が必要 |

事業案 A に関わる収支シミュレーションを実施した結果、設定した前提条件（文末）においては、年間での単純収支がプラスに転換する結果となった。初期投資を回収するには、更なる事業規模の拡大や販売単価の値上げ等の対応が必要である。（前提条件：BBQ 用燃料の販売量：4kg/箱（1700 円）のバイオ炭を、土日祝は 20 箱/日、平日は 2 箱/日。合計→約 2,500 箱/年。土壌改良剤の販売量：150 ㎥/年と仮定。）

表　初期投資費用

| 分類 | 内容 | 数量 | 単位 | 単価(千円) | 金額(千円) |
|---|---|---|---|---|---|
| 竹伐採・収集 | ストックヤード整備(50 ㎡程度) | 1 | 式 | 0 | 0 |
| | バックホウ 0.25 ㎥級 | 1 | 式 | 0 | 0 |
| | 4ｔダンプトラック | 1 | 式 | 0 | 0 |
| 製炭 | 炭化ユニット(製炭炉・消煙装置、設置下見等を含む) | 1 | 式 | 12,000 | 12,000 |
| | フォークリフト | 1 | 式 | 5,000 | 5,000 |
| 合計 | | | | | 17,000 |

表　年間収支シミュレーション（1 年目）

| 分類 | 内容 | 数量 | 単位 | 単価(千円) | 金額(千円) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入 | BBQ 用燃料の販売 | 2,500 | 箱 | 1.7 | 4,250 | 4kg1700 円(LOHAsumi) |
| | 土壌改良剤の販売 | 150 | ㎥ | 20.0 | 3,000 | 2 万円/㎥(三光(株)) |
| | 小計 | | | | 7,250 | |
| 支出 | 竹の調達費 | 12,000 | kg | 0 | 0 | 竹を無償調達する想定 |
| | 人件費 | 1 | 人/年 | 3,500 | 3,500 | 新規に 1 人雇用 |
| | 設備維持管理費 | 1 | 式 | 360 | 360 | 3 万円/月 |
| | ユーティリティ費 | 1 | 式 | 200 | 200 | |
| | 固定資産税 | 1 | 式 | 238 | 238 | 想定値：1.4% |
| | 減価償却費 | 1 | 式 | 2,429 | 2,429 | 農業設備整備費：7 年 |
| | 一般管理費 | 1 | 式 | 516 | 516 | 想定値：12% |
| | 小計 | | | | 7,242 | |
| 合計 | | | | | 8 | |

### 4-3.　木質バイオマス燃料に関わる参考資料

バイオマス燃料の活用方法として、他にも、木質バイオマスボイラーによる熱利用が想定される。木質バイオマスボイラーは、熱供給量の多い温浴施設や宿泊施設に整備されることが多い。市内には、夢ランドしらさぎ等の温浴施設があるため、これら施設への導入も可能性がある。

## 第５章　再エネビジョン普及ツールの開発

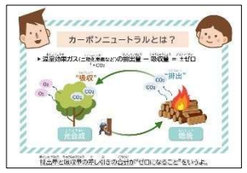
### 5-1.　デジタル紙芝居

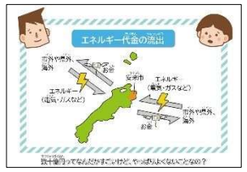
#### 5-1-1. 前提条件の整理

デジタル紙芝居は、再エネビジョンを、とにかく伝わりやすい内容にスライド化（PowerPoint）して作成した。安来市ホームページに公開するものとして、スライドにナレーションを付けて動画化した。

- 目的：再エネの基本を学びつつ、再エネビジョンをわかりやすく伝える
  ※　特に、「再エネを上手に活用し、“電気や熱を地域でつくる、地域でつかう”が当たり前な安来市を目指します。」の部分を強調。
- ターゲット：安来市在住の小学生（特に４年生）や大人
- 活用方法：①小学校への出前授業（年１回程度）、②自治会等への出前講座（年１回程度）、③音声動画を安来市 HP 等にアップ、④市職員が閲覧

#### 5-1-3. 成果品の紹介





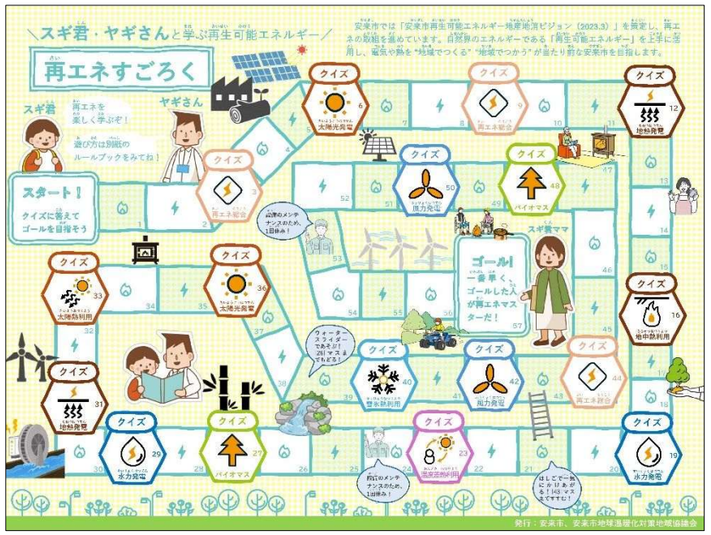
### 5-2.　再エネすごろく

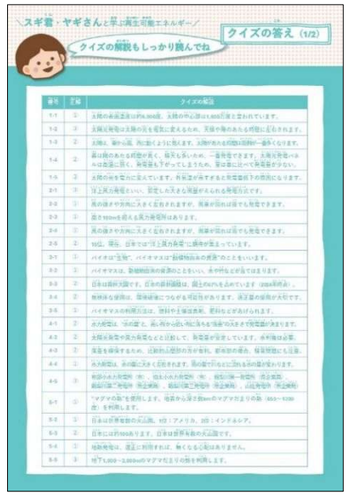
#### 5-2-1. 前提条件の整理

再エネすごろくは、「再エネについて、楽しく学べる普及ツール」として作成した。作成後も容易に修正ができるように、PowerPoint を使用して作成した。

- 目的：再エネについて、楽しく学べる普及ツールを作成する
- ターゲット：安来市在住の小学生（必要に応じて、中学生以上）
- 活用方法：①小学校の授業や休み時間、②その他（出前講座等）

#### 5-2-3. 成果品の紹介





## 第 6 章　理解促進イベントの実施およびプラットフォーム形成に向けた検討

### 6-1.　木質バイオマス熱利用を絡めた体験型イベント

#### 6-1-1. 開催概要

木質バイオマス熱利用を絡めた体験型イベントは、昨年度開催された「エコイベントつくりませんかプロジェクト」の第 2 弾。体験型の再エネをテーマとしたバイオ炭に関するモニター検証企画として開催した。

- イベント名：エコイベントつくりませんかプロジェクト Vol.2
- 日時：2024 年 11 月 3 日（日）15 時 00 分～19 時 30 分
- 開催場所：山佐ダムキャンプ場駐車場
- 開催趣旨：再エネの取組に係る理解促進として、バイオ炭に関するモニター検証企画の実施
- 対象者：誰でも参加可能
- 体制：①主催→安来市、安来市地球温暖化対策地域協議会
  ②共催→島根県立大学
  ③運営→株式会社荒谷建設コンサルタント

図　開催概要

写真 本イベント当日の風景

図　広報用チラシ

#### 6-1-2. 井戸端会議

本イベントでは、バイオ炭づくり体験や熱量比較実験を通して感じたこと、考えたことを参加者で共有し合う場として、井戸端会議を開催した。

#### 6-1-3. アンケート調査結果

本イベント終了後、オンライン上での「参加者アンケート」を実施した。調査結果の分析は以下の通り。

- [設問 1]の「満足度」に関わる問いについて、参加者全員が「大満足」や「満足」と回答している。**再エネに関わる理解促進において、ある一定の成果が出ている**と判断できる。
- [設問 4]の「スタッフ対応（運営）」に関わる問いについて、参加者全員が「大変良かった」や「良かった」と回答していた。企画から準備、運営にかけて、ある程度の成果が出ていると判断できる。
- [設問 5]の「参加費」については、参加者のほぼ全員が「極めて安い」や「安い」と回答している。運営費の確保の観点から、継続的な取組としていくためにも、参加費は少々値上げしても良い可能性がある。
- [設問 6]の「今後の参加意欲」に関わる問いについては、全員が「すごく思う」や「多少思う」と回答していた。このことから、**本イベントは継続的な実施が望まれる**と判断できる。

図　アンケート調査分析

### 6-2.　太陽光発電ワークショップ（環境フェア出展）

#### 6-2-1. 出展概要

太陽光発電に係るワークショップとして、「太陽光×農業（食品ロス）×IT」をキーワードに、安来市が主催している環境フェアに出展した。

写真　本出展当日の風景

- 日時：2024 年 10 月 27 日（日）9 時 00 分～14 時 00 分
- 開催場所：伯太中央交流センター（出展は、入口付近）
- 出展趣旨：「太陽光×農業（食品ロス）×IT」をキーワードに出展することで、地元住民等に対して、太陽光発電等の再エネに係る理解促進を図る。
- 出展実施体制：安来高校×安来市×再エネ事業者（山陰酸素工業株式会社）

図　開催概要

#### 6-2-2. 安来高校や再エネ事業者との連携

本出展では、SDGs の取組（フードロス）を進めている**安来高校や再エネ事業者と連携して企画・運営・実施**した。企画内容は、再エネ事業者所有の垂直設置型太陽光発電パネルにて**「電気をつくり」、梨やブドウのスムージーをつくるミキサーで「電気を使う」**といったものである。また、「電気を使う」では、EV 自動車（日産サクラ）の展示も行った。梨やブドウは、市内の農園で生産された規格外のものを使用した。

#### 6-2-3. アンケート調査結果

出展中、口頭での対面アンケート調査を行った。アンケート内容は、「再エネのレジリエンス効果」や「プラットフォーム立ち上げに係る興味や関心」等とした。

- [設問 5]は、交流センター等に再エネ設備を設置した場合の「レジリエンス効果」に関わる問いである。アンケート回答者の約 8 割が「はい」と回答したことから、**地域住民も再エネ設備のレジリエンス効果に関して、一定の評価をしている**と判断できる。
- [設問 7]では、「今後の再エネ取組に向けたあらゆる意見」（イベント出展関係や PR 活動の工夫等）を抽出することが出来た。今後の取組の参考になると考えられる。
- [設問 8]は、プラットフォーム形成に向けた「参画や参加の意欲」に関わる問いである。アンケート回答者の約 3.5 割が「はい」と回答した。再エネに対して、関心や積極性がないと「はい」と回答しにくいと想定されることから、**再エネに対する関心や積極性は低くないと判断**できる。

図　アンケート調査分析

### 6-3.　プラットフォーム形成に向けた検討

将来的には、理解促進イベントや勉強会等は、**地域（市民、団体、事業者等）が主体となって、サスティナブルに自走する体制が望ましい**とされる。本調査では、今後のプラットフォーム形成に向けた検討として、先進事例である「藤野電力」や「気候市民会議」について整理した。

#### 6-3-3. プラットフォーム形成に向けたヒアリング調査

先進事例調査を踏まえ、今後のプラットフォーム形成に向けた安来市の課題を整理した。

**【課題 1】: 安来市内におけるフレキシブルな「場」の構築**
- まずはインセンティブを得やすい**再エネ事業者との勉強会の開催** 等

**【課題 2】: 熱意をもって取組を推進できる人材の発掘・育成**
- 人材発掘・育成においては、目的意識を明確にする必要がある
  ※ 目的意識例（1）地球温暖化という課題に**“地域レベル”で取組む**
  →地域が活性化し、**地域経済循環が促進する** 等
  ※ 目的意識例（2）**CSV の実践（事業と公益を両立）**